

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 26 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02821

研究課題名(和文)第二言語習得理論に基づく外国人のための日本語文法教授法 - Web公開に向けて

研究課題名(英文) Japanese Grammar Teaching Methods for Foreigners Based on Second Language Acquisition Theories-Towards Web Publishing

研究代表者

山下 早代子 (YAMASHITA, Sayoko)

実践女子大学・人間社会学部・教授

研究者番号：90220334

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：初年度は「第二言語習得理論に基づく外国人のための日本語文法教授法」のWeb公開を果たした。<Japanese Grammar World>と名付けたWebにて教授法の公開、教授例、海外でのワークショップの成果等を閲覧できるシステムを構築した。最終年度はサイトの整備と、その周知に力を入れた。全国語学教育学会の秋の国際大会では4人の登壇者を迎え、中級日本語教育における文法指導に関するフォーラムを実施した。

平成30年度は配信システムを完成させた。なお、本Webシステムのサーバー継続利用に関しては別途年度毎に経費がかかるため、本研究の終了をもって終了する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

海外で日本語教育のニーズが高まる中、Webサイトによる主に海外で日本語教育に従事する教師たち(日本人教師だけでなく、日本語を母語としない日本語教師)に対して最新の第二言語習得理論をベースにした教授法の提案と実際の教授例を提供することはそのニーズに応えるものであり、社会的意義が大きい。

また、最新の言語習得理論を合わせて提示することは単に言葉を経験的に教えるということ以上の学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：In the first year, the main goal of this research was to open the Web "Teaching Japanese Grammar for Foreigners Based on Second Language Acquisition Theories." We have created a system that allows people to view teaching methods, teaching examples, results of overseas workshops, etc. on the Web site named <Japanese Grammar World>. In the final year, we focused on the maintenance of the site and its dissemination. At the JALT National Conference on Language Education, we hold a forum inviting four speakers on grammatical instruction for intermediate level Japanese learners. We had a lively discussion about grammar teaching supported on the web. We presented some problematic intermediate level grammatical items, discussed the issues, and offered teaching approaches to help clarify them for learners.

研究分野：応用言語学、第二言語習得理論、語用論、社会言語学

 キーワード：第二言語習得理論 外国人のための日本語 日本語教授法 文法教育 JapaneseGrammarWorld
Web語学教材 中級日本語 SLA

1. 研究開始当初の背景

研究の学術的背景

本研究に関連する国内の研究動向及び位置づけ：

第二言語あるいは外国語としての言語教育における教授法、中でも文法の教授法はどうあるべきか、どのようにしたら学習者に効果的に文法を教えることができるか、という問いは言語教育関係者が常に問いかけているものである。国内・国外を問わず日本語教育では多くの教科書がいまだにいわゆる文法シラバスに沿って構成されている。近年、コミュニカティブな方法、タスクやグループ・ワークを用いた教室活動が導入されるようになってきたとはいえ、多くの日本語教科書が同じような順番で文法項目を導入しており、その導入の順番が学習者の習得パターンを科学的に実証し、その根拠をもとに決定されたものであるとは言えない。

言語教育を行う上では、学習者がどのようにして言語を習得していくのかの基礎研究(第二言語習得理論研究)を行い、その結果を踏まえて言語教育に生かす、というプロセスが重要だが、そのような試みは日本語教育の現場ではまだそれほど多くは行われていないのが現状である。特に日本語教育関係の専門誌(『日本語教育』『第二言語習得研究』等)では、異なる母語をもつ学習者間の比較や、誤用の研究、コーパスをベースにした研究等は盛んに行われているが、第二言語習得理論を踏まえた上で文法事項の教授方法を考えるといった研究は少なく、海外の研究に後れをとっていると言わざるをえない。本研究に関連する国外の研究動向及び位置づけ：

上記の国内の動向に対し、海外での第二言語の教育は90年代に入り、目覚ましく発展している。これに大きく関与しているのが、第二言語習得理論研究である。インプットが大きく係る **Interaction Hypothesis (Pica, 1994; Long, 1996; Gass, 1997; Gass and Mackey, 2007)**、**Processability Theory (Pienemann, 1998)**、**The Input Processing Theory (VanPatten, 1996, 2004)**、**Skill-learning Theory (DeKeyser, 2006)**などの理論が、言語指導法、特に文法教育に大きな影響を与え、パターン練習と代入練習中心であった **Focus on FormS**(伝統的な文法教授法)の見直しを迫り、**Focus on Form**(一つのフォームに特化した文法教育)を中心にした様々な意欲的なタスクが提案されている(**Processing instruction practice, Input enhancement techniques, Consciousness raising tasks, Collaborative output tasks**など)。日本でも英語教科では徐々にそれらの動向が紹介され、取り入れられつつあるが、日本語教育では英語教育ほどの理論の浸透は見られず、これからの研究が待たれる状況である。

2. 研究の目的

海外の最新の第二言語習得理論(SLA)研究と、それを取り入れた教室活動を調査し検証する。

SLAの知見を取り入れた日本語学習者のための日本語文法習得研究に焦点を当てて調査し、どのような文法項目と教授方法がSLAの視点から研究されているかを検証する。

上記の調査研究成果をワークショップ、学会等で公開し、広く研究者と共有する。

第二言語習得理論と教授法研究を反映した「日本語教師のための効果的な文法指導法例」をまとめ、国内・海外の日本語教育関係者にインターネットを通して発信する。

3. 研究の方法

初年度は、海外で著しく研究の進んでいる第二言語習得理論の動向、およびそれを取り入れた英語教育現場を調査するため論文や書籍などによる先行研究を行い、また海外の関連学会に参加し知識を吸収した。これを参考に次年度にかけて、日本国内と海外の日本語教育機関で教師・学生の協力を得て実際の授業を通して<第2言語習得理論の知見を取り入れた外国人のための日本語文法指導法の実証的な調査>ワークショップ、国内外の学会などの公開の場で発表し、広く周知し、(予備調査と本調査)を行い、提案する日本語文法指導法の効果を検証した。最終年度である3年目には、得られた知見(SLA理論を反映した外国人のための新たな日本語文法指導法)を最終的に国内外の日本語教師が参照できるように、Web発信システムを完成させた。

4. 研究成果

2016年度

「第二言語習得理論に基づく外国人のための日本語文法教授法」のWeb上への公開に向けてIT専門家を交えて複数回会合を持ち、専門家の意見を取り入れてサイトの構築を模索した。その結果、<Japanese Grammar World>と名付けたWebサイトの原型を作成し、教授法の公開、教授例、海外の日本語教育ネットワークの紹介ができるシステム案の構築ができた。

またこのサイトの中身を充実させるため、SLAの研究動向を探り、フォーラムおよびワークショップを実施して理論の理解を深め、広く利用者からの反応を聞いた。

ワークショップ実施—英国DAIWA Foundation(2016年10月17日ロンドンにて)テーマ：

「Launch of an Online Platform for Teachers and Learners of Japanese」(教師と学習者のためのオンライン日本語教育の立ち上げ)登壇者：山下早代子(実践女子大学)、Alessandro Benati(英国ポーツマス大学)—ロンドン在住および近郊の日本語教育関係者20名余が集まり活発な質疑応答が行われた。日本人日本語教育関係者だけでなく、初等中等教育における日本語教育に関わるイギリス人日本語教師

の参加もあり、ニーズの高さがわかった。その後サイトに設けられた **Q & A to the Expert** (専門家への Q & A)へは複数名の海外からの質問が寄せられ、このサイトを立ち上げたインパクト成果が得られた。

フォーラム実施—JALT 全国語学教育学会国際大会 **JLSIG** (2016年11月27日名古屋愛知県産業労働センターにて) テーマ:「**Teaching Japanese Grammar-Theory and Pedagogy**」(日本語文法を教える—理論と教育) 登壇者: 西由美子(米国アイオワ大学)、宇佐美恵子、山下早代子(実践女子大学)、**Alessandro Benati**(英国ポーツマス大学)。このフォーラムは国内の参加者が中心で、登壇者からは最新の **SLA** 理論と実践について問題提起がなされ、活発な議論が行われ、その成果はサイトに報告された。

2017年度

SLA 理論と日本語文法教育について継続して研究を行った。その成果は、国内外でのワークショップを通して、広く本研究の意義を伝え、日本語文法教育に第二言語習得理論の知見が必要なこと、またそれをインターネット **Web** を通していかに周知していったらいいかを国内外に広めた。本研究は海外と日本で同時に研究会(ワークショップ)を行うことにより、**Web** による日本語文法教育の仕組みをわかりやすく説明し、国内のみならず海外でも知見を共有するという位置づけに大きな意義があった。

ワークショップ実施—英国ロンドン大学(2017年10月28日 **SOAS** キャンパス) テーマ:「**Learning and Teaching Japanese Grammar Workshop for Teachers**」(日本語文法教育の学習と教育—教師向けワークショップ) 登壇者: 古川彰子(英国ロンドン大学)、百済正和(英国カーディフ大学)、橋本千恵、山下早代子(実践女子大学)、**Alessandro Benati**(ポーツマス大学)。それぞれの登壇者から16年度には取り上げられなかった **SLA** 理論と教育実践についての紹介と問題提起がなされた。参加者はイギリス在住の日本人教師(イギリス人含む)、大学関係者、日本語学校教師、国際交流基金関係者、個人教師などさまざまな形で日本語教育を行う教師で、これらの教師が一同に集まり、同じテーマで情報交換をすることに大きなインパクトがあった。これがサイトの内容向上につながった。国外で日本語教育に従事する教育者にとって、このような **Web** サイトを通して日本語の教え方を学べるということは参加者から大きく評価された。

ワークショップ実施—国際基督教大学(2017年11月11日三鷹) テーマ:「**SLA** 理論をベースにした日本語教授法」 登壇者: 小柳かおる(上智大学)、橋本ゆかり(横浜国立大学)、山下早代子(実践女子大学)、**Alessandro Benati**(ポーツマス大学)。国内の日本語教育をリードする二人の専門家に加え、40名以上の参加者があり、**SLA** 理論をさらに深く理解するという成果につながった。

2018(最終)年度

サイトの整備と、その周知に力を入れ、発信システムを完成させた。**JALT** 全国語学教育学会秋の国際大会では4人の登壇者を迎え、中級日本語教育における文法指導に関するフォーラムおよび日本語教育サイト < **Japanese Grammar World** > の周知を徹底させた。

フォーラム実施—**JALT** 全国語学教育学会国際大会(2018年11月24日於静岡コンベンションセンター) テーマ:「中級日本語教育における文法指導」 登壇者: 小澤伊久美(国際基督教大学)、桜木ともみ(国際基督教大学)、富倉教子(早稲田大学)、山下早代子(実践女子大学)。

以上2016年~2018年の3年間にわたり日本語文法教育の **Web** システム構築に力を注ぎ、当初の目的であるインターネットを通して「第二言語習得理論を反映させた日本語文法教育」を発信させる **Web** システムを完成させた。単なる語学文法教育ではなく、「第二言語習得の最新の理論を反映させた」文法教育システムの **Web** 発信というユニークなもので、国内外から多大な関心を持たれインパクトのある独自研究として成果を出した。最新の **SLA** 理論を知り、それを **Web** に反映させる目的で、主として大学で教育を行う内外の第一線で活躍する研究者の登壇を仰ぎ、国内外のワークショップやフォーラムを通して最新の **SLA** 理論や文法教育に精通する活動も充実させることができた。

*なお、本 **Web** システムのサーバー継続利用に関しては別途年度毎に経費がかかるため、本研究の終了をもって終了する。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 1件)

- (1) 山下早代子 (2019)「女性ことば研究の今—その傾向と動向」『下田歌子記念女性総合研究所年報』5, 15-33

[学会発表](計 5件)

- (1) **JALT** 全国語学教育学会国際大会(於静岡コンベンションセンター)2018年11月24日、フォーラム「中級日本語教育における文法指導」登壇者: 小澤伊久美、桜木ともみ、富倉教子、山下早代子
- (2) 国際基督教大学(三鷹)2017年11月11日、ワークショップ「**SLA** 理論をベースにした日本語教授法」登壇者: 小柳かおる、橋本ゆかり、山下早代子、**Alessandro Benati**
- (3) 英国ロンドン大学 **SOAS** キャンパス、2017年10月28日、ワークショップ「**Learning and Teaching Japanese Grammar Workshop for Teachers**」登壇者: 古川彰子、百済正和、橋本千恵、山下早代子、**Alessandro Benati**
- (4) **JALT** 全国語学教育学会国際大会(名古屋愛知県産業労働センター)2016年11月27日、フォーラム—**JALT JLSIG** 「**Teaching Japanese Grammar-Theory and Pedagogy**」登壇者: 西由美子、宇佐美恵子、山下早代子、**Alessandro Benati**
- (5) 英国 **DAIWA Foundation**、2016年10月17日、ワークショップ「**Launch of an Online Platform for**

〔図書〕(計 1 件)

- (1) Benati, A. & Yamashita, S. (2016). *Theory, Research and Pedagogy in Learning and Teaching Japanese Grammar*. London: Palgrave Macmillan.

〔その他〕

ホームページ等

- (1) <JapaneseGrammarWorld> <https://teachingjapanesegrammar.com/>

構成—Home/ how to/grammar forum/more resources/about us/ask expert の6つのセクションを持つバイリンガル(日本語・英語)のサイトで、SLA 理論と教授法の概略、実際の文法を取り上げた教授法例、本科研期間に行った日本と英国でのワークショップとフォーラムの概略報告がまとめられている。

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：小澤 伊久美

ローマ字氏名：OZAWA, Ikumi

所属研究機関名：国際基督教大学

部局名：教養学部

職名：講師

研究者番号(8桁)：60296796

研究分担者氏名：長谷川 奈緒美

ローマ字氏名：HASEGAWA, Naomi

所属研究機関名：実践女子大学

部局名：研究推進機構

職名：研究員

研究者番号(8桁)：00773095

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。